

第一二二回通信句会 選句結果

平成二十八年夏。選句数は五句、うち特選一句。  
(○内の数字は、特選句数で選句の内数です)

- 2点 崎陽軒たまの贅沢猛暑かな かつおる
- 2点 半衿を紹に替え姉妹の酒処 幸
- 5点②風疾し子の放たれしキャンプ村 守
- 日本でも女帝誕生夏の朝 直子
- 3点①扇風機むかしの風の独り占め 秀一
- 4点①夏霧や牧の牛の背黒光る 友子
- 2点 子と摘みし朝の庭なり熟れとまと ツル子
- 3点 朝顔よどこへ行くかと巻きなおす 眞壽
- 5点 麦秋や風道くぐる櫂の音 才美
- 3点①一輪の薔薇も重たし負傷の身 安紀子
- 初夏のきて並びし椅子に露天風呂 眞三
- 花莫蔭や背を預けて浅き夢 幸枝
- 7点 青空を組み合はせたる代田かな のり子
- 2点①ウイルスの影の蠢く茂りかな 明美
- 3点①夏蝶や標たよりの森の道 幸子
- 1点①青葉潮までひと息にロープウェイ 朋子
- 涼風来ホーム通過の電車かな ヤエ子
- 1点 赤白の帽子の波や夏の蝶 のり子
- 2点 やむ雨を待つかに寺の蝉鳴きぬ ツル子
- 句集読む語彙乏しきや汗拭ふ かつおる
- 階段の灼くる手すりや凌霄花 ヤエ子
- 街向ひ向ひ風なる風涼し 眞三
- 1点 母の忌の兄妹多弁夏果つる 秀一
- 1点①ファベラに響く跣足の子のサンバ 明美
- 1点 温泉の湯船に浮かぶ夏蜜柑 眞壽
- 白上布老舗の女将の結綿髪 幸
- 9点②蚊遣火を焚いて真昼のカフェテラス 幸子
- 2点 遠汽笛ほたるぶくろに灯を入れよ 才美
- 4点①夕立や少し傾斜の駅ホーム 守
- 4点①糠床に茄子は茄子紺残しけり 幸枝
- 3点 県境のせせらぎまたぐ夏野かな 友子
- 6点③山滴れり銃声の一度きり 朋子
- 4点 ひぐらしの声しみとおる齡かな 安紀子
- 古希の友暑中見舞で賀状止め 直子
- 4点②籐椅子の父の形のへこみかな のり子

- 2点 朝刊を読み終へしより蝉しぐれ 秀一
- 3点①諫言のひとつ空しき冷し瓜 守
- 3点 コラーゲン充ちぬし赤子水練す 明美
- 3点②呼気苦し炎天肺を蝕めり 幸枝
- 7点①遠花火走らぬ文に向かひをり ツル子
- 1点 夏の日に空から望む黒き富士 眞壽
- 1点 レシピ無視の我流の夫や夏料理 友子
- 2点 一端の太鼓奏者や祭髪 かつおる
- 父愛用し網襦袢の箱ありき 幸
- 6点①車庫を出る路面電車や原爆忌 朋子
- 3点 うどん打つ腕太き婆日輪草 ヤエ子
- 3点 三門に立てば下界は蝉時雨 幸子
- 3点 ビードロの皿に日を盛り夏料理 安紀子
- 街路樹の発する蝉や一段と 眞三
- 2点①濃紫陽花剪りて帰帆を見失ふ 才美
- 夏祭り綿菓子焼そば合歓の花 直子

「事務局からお知らせ」

○九月句会

期日・九月二十五日(日)午後一時から  
会場・旭区民文化センター(サンハート)

○十月句会

期日・十月三十日(日)。  
大磯で吟行後、鳴立庵で句会を行います。詳細は、  
追って、お知らせいたします。